



同窓会だより

発行 愛知工業大学名電高等学校同窓会
〒464-8540 名古屋市千種区若水 3-2-12
TEL (052) 721-0311 (代表)

題字は故後藤淳・名古屋電気学園学園長・総長

新しい時代にも伝統と絆を繋ぐ



永井広明会長
(昭和51年卒業)

新緑も目に鮮やかな日々
となつてまいりました。会
員の皆様には日頃の同窓会
活動にご理解とご協力を頂
きましてありがとうございます。
また、新天皇陛下のご即位、
改元が目前に迫り、新しい

時代の幕開けを皆様と共に期待を持って迎えたいと思いま
す。

さて、昨年は母校名電高校にとつて、悲しい事やうれしい
出来事がたくさんありました。

6月に恩師、後藤淳総長先生がご逝去されました。我々同
窓生を導き、学園を発展せられた功績に思いを致し、ここに
ご冥福をお祈りしたいと思います。

うれしかった事は現役高校生たちの目覚ましい活躍で
す。野球部の100回記念大会である夏の甲子園出場。暑い
甲子園球場で、更に熱い思いを持って応援を致しました。卓
球部も選抜大会に続き、インターハイも制覇し、まさに黄金
時代です。今年に入つても、バレーボール部の2年連続での春
高バレー出場等、枚挙に暇がありません。同窓会では、現役
生部活の支援として全国大会出場クラブの激励表彰を行
なつておりますが、沢山のクラブが全国大会に進出し、私は
その応援に行つたり、都度、学校に足を運び激励したり、そ
の忙しさはうれしき限りでした。

また、同窓会のイベント、第3回を迎えた「ホームカミン
グデー」は大変な盛況のうちに終了致しました。この成功は
日頃の会員の皆様のご理解とご協力あつての成果です。今後
も諸先生、先輩方が築いてこられた輝かしい伝統と尊い絆
を未来ある若い世代へと繋いで参りたいと思ひます。

学校の魅力をますます明確に



後藤泰之理事長
(同窓会名誉会長)

名古屋電気学園は今年
で創立107周年を迎え
ます。これもひとえに教職
員はもとより各設置校の
同窓生の皆様のご理解、ご
協力によるものと心から感
謝申し上げます。

名古屋電気学園は、3年後の2022年に迎える学園創
立110周年に向けて、さらなる発展を目指すために、第1
期中期経営方針を策定しました。教育のモットーである「創
造と人間性」に基づき、社会の発展に貢献する豊かな人間性
を兼ね備えた人材の育成をミッションとし、3つのビジョン
と5つの重点戦略に取り組みます。

名電高校におきましては昨年、卓球部が全国大会で通算
7連勝を達成し、野球部が夏の甲子園で30年ぶりの勝利を
挙げました。またバレーボール部、フェンシング部が全国大
会で活躍し、吹奏楽部がアンサンブルコンテストの全国大会
で金賞に輝くなど、大いに活躍して、学園全体に活気を与え
てくれました。目標を持って何でもできるということは、名
電高校の特色であり、勉学だけでなく、学校としての魅力を
ますます明確にして、生徒、保護者をはじめ地域から必要
とされる学校を目指していきたいと考えております。

理事長と併せて学長を務めております愛知工業大学は、
今年開学60周年を迎えます。また、昨年から附属中学校の
校名を「愛知工業大学名電中学校」に変更いたしました。

これまでの歴史と伝統を継承しつつ、各設置校が一体と
なつて、さらに活力と魅力にあふれた学校になるよう取り組
んでまいり所存でございます。同窓生の皆様には、ぜひ今後
とも本学園に変わらぬご支援をお願い申し上げます。

学園総長・後藤淳先生の学園葬を齎行

平成30年6月1日に90歳で逝去した学校法人名古屋電気学園総長、後藤淳先生の本葬告別式「学園葬」が7月3日、名古屋市千種区の覚王山日泰寺で営われました。学園の後援会組織である名古屋電気学園愛名会の元会長・神尾隆氏が葬儀委員長を務め、葬儀と告別式に合わせて2358人が参列して先生のご冥福をお祈りしました。



供花に囲まれたご遺影

日泰寺に到着したご遺骨、お位牌、ご遺影がご遺族から神尾委員長に伝達され、午前11時30分から葬儀が始まりました。

読経に続き、神尾委員長が式文を読み上げ、教育・スポーツ界や日中友好の分野で果たしてこられた先生の業績をたたえました。

弔辞は、先生と同郷の長野県須坂市出身、遠藤守信信州大学特別特任教授・愛知工業大学客員教授が読み上げました。



遠藤守信 信州大学特別特任教授・愛知工業大学客員教授

遠藤教授は、先生の学内外での功績のほか、先生が生前に見せた名電高生との心の触れ合いなどに触れ「今は天国で学園の発展を見守ってくださいということでしょう」とご遺影に語りかけました。

程永華駐日中国大使らの弔電が奉読された後、読経が流れる中で焼香が始まりました。

まりました。先生の生前の幅広い交友を反映し、大村秀章愛知県知事ら政財界、教育界、中国総領事など日中友好の関係者ら227人が次々とご冥福をお祈りしました。



挨拶をする後藤泰之理事長と神尾隆葬儀委員長(左)

最後に神尾委員長と喪主の後藤泰之理事長が挨拶に立ち、後藤理事長は「先月1日、一時帰宅がかない、自宅へ戻り、その途中には人一倍思いの強かった愛知工業大学名電高等学校へも立ち寄り、車内から手を振るほど元気でました」と、ご様子が変わる前の先生の最期の一日を振り返り「学園のために何事も真つ向勝負でぶつかっていった亡き父の遺志を受け継ぎ、学園教職員とともに皆様の

故・後藤淳先生の主な経歴

- 昭和32(1957)年 4月: 学校法人名古屋電気学園に勤務
- 昭和47(1972)年 2月: 同・理事長(～2016年5月)
愛知工業大学学長(～2004年3月)
学校法人愛和学園理事長(～1999年3月)
- 昭和51(1976)年 5月: アジア卓球連合会長(～2001年5月)
(同年5月より終身名誉会長)
- 昭和58(1983)年 4月: 日本私立大学協会理事(～2008年3月)
同年 11月: 愛知県知事表彰「教育文化功労」受賞
- 昭和59(1984)年 4月: 「藍綬褒章」(教育功労)受章
- 昭和63(1988)年 4月: 愛知県私立大学協会会長(～2012年3月)
- 平成 3(1991)年 11月: 中国江蘇省「荣誉市民(名誉省民)」の称号授与
- 平成 8(1996)年 1月: 愛知県日本中国友好協会会長(～2017年7月)
(同年7月より名誉会長)
- 平成11(1999)年 5月: 愛知県体育協会会長(～2007年5月)
(同年5月より名誉会長)
- 平成16(2004)年 4月: 学校法人名古屋電気学園総長
同年 11月: 「旭日中綬章」受章
- 平成28(2016)年 5月: 学校法人名古屋電気学園学園長(～2018年3月)

力をお借りし、飛躍、発展させていく所存でございます」と結びました。

告別式は午後1時30分に始まり、制服姿の学園設置校の学生・生徒を含む2000人余が参列。次々と本堂に進み、供花に囲まれて微笑む先生のご遺影に向かつて手を合わせました。



焼香台で手を合わす設置校の生徒ら

第3回 ホームカミングデー

愛知工業大学名電高等学校同窓会は昨年11月10日、第3回ホームカミングデーを開催いたしました。これは同窓会の絆を深めるため、平成28年から始まった里帰り企画です。母校を訪れた同窓生たちは、高校時代を懐かしみながら当時の思い出話に花を咲かせたり、近況を報告し合って旧交を温めていました。



恩師との懇談



きくち教児氏による
トークショー



仲間との記念撮影
(ケータリングの移動販売車の食事の合間に)



受付に集まる同窓生の皆さん

当日は、午前10時に受付が始まり、体育館でダンス同好会、チアリーディング部の演技披露、淳和記念館で吹奏楽部の演奏会が開かれました。今回、卒業して9年・10年(平成20年・21年卒)の節目に同窓会をおこなった皆さんには、懇談の場に教室を開放しました。恩師が教壇に立つて雑談をはじめると、同窓生の皆さんは高校時代に戻ったように、目をキラキラと輝かせ笑顔を見せました。懐かしい仲間や恩師との再会に時間を忘れて、いつまでも話し込む姿が印象的でした。



ダンス同好会の演技



チアリーディング部の演技



吹奏楽部の演奏

お昼には、OB経営のカレーハウスCOCO壱番屋、お好み焼きなどの移動販売車で食事を用意しました。また、タレント・きくち教児氏によるトークショーも行なわれ盛況でした。ホームカミングデーは、学年・クラス単位の同窓会を開催することができます。時期は毎年秋を予定しておりますので、開催希望の幹事さんは8月頃までにご連絡をお願いいたします。

第4回 ホームカミングデー開催のお知らせ

同窓会では2019年秋のホームカミングデー開催にあたり、同窓会の幹事やサポートスタッフの募集、イベントについてのご意見等も受け付けております。

詳しくはホームページでお知らせします。
<http://www.meiden-ob.net/>



やあ！お元気ですか

誇らしき母校、名電

佐藤左二郎さん

(昭和33年電気科卒業)



佐藤左一郎さん

むかし昔、私が中学校3年の12月のことです。廊下に貼り出された私学の生徒募集ビラ、左から見てくると紫色のビラに吸い寄せられました。目が点になるとはこのことでした。「名古屋電気高等学校」：電気の学校があるんだ、この学校に行こう！即決でした。名電の3年間で特に記憶にあるのは、入学式の校長先生の言葉「初心忘れるべからず」で私の座右の銘となりました。

部活は、新聞部に入りました。思い出は、森先生の新婚インタビューです。この記事の載った新聞は、まだ家に大切にしまっており、300名を超えておりABC Dの4クラス、教室が足

りなかったのでしょう、D組は78名で、ぎゅうぎゅうづめでしたが騒ぐこともなく、熱心に先生の講義を聞いていました。

卒業した昭和33年は、「有史始まって以来の不景気」と言われた年でしたが、求人はいっぱい来ており、一流企業に就職した人も大勢いました。私は国鉄希望で、幸い就職できJR東海も含め電車線路一筋に36年年勤め、54歳で退職し現在の「東京電気管理技術者協会」に入り早25年です。入学の時に目にした「電気主任技術者」の仕事、15歳の夢の仕事は今、良き仲間とともに安全第一で努めています。

ブッポウソウと私

末廣肇さん(旧姓 庄司)

(昭和34年電気科卒業)



末廣肇さん

みなさんはブッポウソウという鳥を知っていますか。南方より繁殖のため日本に飛来する30センチ程の小さな渡り鳥で、長野県の天

然記念物に指定されています。私は長野県天龍村にやってくるこの鳥の巣作りから巣立ちまでを見続けるうち、その魅力に惹かれ、11年前からこの村に移り住むことになりました。



青緑色の羽根が美しいブッポウソウ

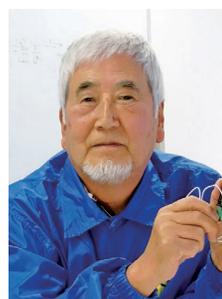
きつかけは、長年の趣味であるビデオカメラでした。地元の小学校でブッポウソウの観察活動の発表を撮影したことが縁となりました。この鳥は遠く約4000キロ離れたカンボジア以南で越冬し、春から夏にかけて天龍村にやってきて産卵と子育てをおこないます。毎年ヒナがふ化する時期や、巣立ちの日などはカメラをセットして、その瞬間をひたすら待ち続けます。野鳥はこちらの思い通りの映像をなかなか撮らせてくれませんが、美しい姿をとらえた時には嬉しさがこみ上げてきます。また、長年観察されてきた寺の住職さんと意気投合。

今ではこの鳥と自然豊かな天龍村を多くの方に見てほしいと村の観光まで考えるようになりました。毎年5月初旬から7月下旬はブッポウソウがやってくる季節です。ぜひご家族で天龍村へ見に行ってください。

深谷先生の思い出

中嶋奨さん

(昭和42年電子科卒業)



中嶋奨さん

私は、小学校高学年の頃より昔風に言えばラジオ少年。これを自分の将来の仕事としてとらえた時、当時の家庭環境から工業高校電子科への進学でした。電子科に入学して「行く末は船舶通信士」でした。進学後、深谷先生と出会い、「船舶通信士が乗船する時代はなくなる。陸上の技術士を目指せ」と言われ、将来を見据え、二級無線技術士合格を目指し放課後に特別授業をしていただきました。残念ながら努力が足りず在学中に取得できま

せんでした。

しかし、就職した電電公社においてこの目標を持ち続け、24歳で二級、そして30歳すぎには一級無線技術士の資格も取得できました。その間、無線技術はマイク口無線からドコモの携帯電話へ変遷しました。

名古屋に帰省した際には、折に触れ愛工大に移られた深谷先生の八草キャンパス研究室にお邪魔して近況をお話しし、その都度親身なご指導をいただきました。しかしながら、比較的早く亡くなられたのが残念です。電子物理で現在の薄型TVで目の目を見ているPDPや有機ELなど、先見の授業が50年後の今でも儼に浮かびます。「合掌」
団塊の世代の一人で、まもなく70歳に手が届こうとしています。無線技術の基本は変わらず、お声かけをいただく間は、地域の住民の命と財産を守る防災無線の設計、無線従事者講習会講師などで、名電工業高校、深谷先生との思い出を胸に、地域の皆さんにお返し出来たらと思っています。



副会長
立木大介さん
(昭和51年卒業)

同窓会会員各位に於かれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は同窓会へのご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。同窓会も100周年を越え巣立った卒業生は6万人を超えております。同窓会の役目として、母校への協力と現役生への支援も大切なものと考えております。

私はホームカミングデイという新しい事業をさらに進めていきたいと思っております。本年度4回目の開催となるこの催しは、年に一度卒業生の



監事
東伸二さん
(昭和52年卒業)

同窓会会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

このたび、諸先輩方の推挙により役員総会におきまして監事に就任いたしました。監事の主な仕事は、理事の業務執行の状況や財産の状況を監査し、報告することとあります。

私のような若輩者が、このような大

皆様を母校にお迎えし、旧交を深めつつ、今の愛工大名電高校を知っていただく機会です。

また、卒業9年・10年を迎えた同窓生の方々の旧友や懐かしい恩師との再会の場として、同期会を開催しております。そして、諸先輩方々にも今の名電を見ていただき親睦・交流する機会を提供していきます。

私自身ホームカミングデイを通じて高校の歴史の深さを痛感いたしております。本年は絆を深め若い人たちがもつと気軽に参加できる同窓会ホームカミングデイにしてゆきたいと思っております。

同窓会会員の皆様におかれましてはご理解ご協力よろしくお願い申し上げます。

役を仰せつかりまして大変身が引き締まる思いですが、母校・愛工大名電高校の更なる発展のために頑張っております。

いよいよ平成の時代が終わろうとしている今、新時代を迎えるにあたり今まで以上に同窓生の絆を図り、何事にもチャレンジ精神で歴史と伝統が今後とも守られ継承されていきますよう邁進してまいる所存であります。

同窓会会員の皆様のご協力とご尽力をよろしくお願い申し上げます。

平成31年卒業 クラス幹事のみなさん

【科学技術科】

- A組 末田元規、鈴木悠大
- B組 小谷裕太、渡邊晴紀
- C組 伊藤颯祐、杉村拓実
- D組 松本大、谷中駿介

【情報科学科】

- A組 森本朱偉、志水陽祐

【普通科】

- A組 幾波雅人、前田龍輝
- B組 成重敦哉、尹河竣
- C組 菊川有希、内藤隆介
- D組 大藪悠登、米倉帆南
- E組 粕谷亮平、関戸哲太
- F組 佐藤奏、庄司棕哉
- G組 中村彰吾、山本陽太
- H組 伊藤公佑、山田竜巳
- I組 柴田大地、平野鴻慎
- J組 張辰洋、小宮修平
- K組 浅野将之、杉浦陸斗
- L組 田中耕太郎、中村滉希

平成30年度役員総会開催

名電高等学校同窓会は、平成30年度役員総会を5月18日、名古屋市内のホテルにおいて役員出席者32名(委任状7名を含む39名)で開催いたしました。

永井広明会長の挨拶、岩間校長の学校の現況報告の後、平成29年度事業報告及び収支決算が報告され承認

されました。また、平成30年度は役員の変更期に当たり事務局の原案通り承認され、引き続き、平成30年度事業計画(案)及び収支予算(案)を審議し、承認され閉会となりました。

◎同窓会からお祝い◎

平成30年度、高校のクラブ活動などに對して、左記のように激励をしました。

第100回全国高等学校野球選手権記念大会出場・野球部

〈その他の全国大会出場クラブ激励〉
卓球部・フェンシング部・バレーボール部・相撲部・ウエイトリフティング部・水泳競技部・ボウリング部・チアリーダー部・吹奏楽部・将棋部・競技かるた部・スキー部・メカニカルアーツ部

また、大学入試センター試験の受験者へ激励の品を贈呈いたしました。

◆おくやみ◆

大澤(森)文男先生

平成30年11月1日に逝去されました。89歳でした。大澤(森)先生は、昭和30年6月に本校教諭となり、平成9年3月に退職しました。また、在職中はフェンシング部の顧問をお勤めになり、多くの選手を育成されました。

高木博さん(同窓会12代会長)

平成30年11月に逝去されました。高木さんは平成10年5月、18年5月まで同窓会会長を務められました。

高校卓球部がインターハイ学校対抗3連覇(優勝17回目)

卓球部

愛工大名電高校卓球部が今夏のインターハイで3年連続17回目の全国制覇を成し遂げました。個人戦でもダブルスで田中佑汰選手(主将3年)・加山裕選手(2年)が名電として4連覇となる優勝を果たしたほか、田中選手はシングルスでも準優勝しまし

た。インターハイ卓球競技は8月4、8日に豊田市のスカイホール豊田で開催、学校対抗決勝は鶴岡東(山形県)との対戦になりました。一番手の曾根翔選手(1年)は2ゲーム落とし最後の猛攻で3ゲーム連取し、逆転



インターハイ3連覇を成し遂げた愛工大名電高校卓球部



田中佑汰(右)・加山裕選手 個人戦はダブルスでも頂点に

勝利。続く二番手の田中選手、三番ダブルスの田中・加山選手ともに3-0で完勝、ストレートで優勝をつかみました。

高校卓球部は春の選抜と合わせて、これで全国7連覇です。後藤淳総長先生の逝去を受けてチームは喪章をつけて大会に臨み、今枝一郎監督は「少しでも恩返しができて本当によかったと思います。地元開催を意識していましたので、この優勝は格別にうれしいです」と安堵の表情を浮かべました。

日本代表選手たちを擁した昨年のドリームチームとは異なり、今年のチームはチャレンジャーの精神を忘れずに戦い抜きました。今枝監督は「まず私自身が重圧に押しつぶされないように意識しました。『勝てよ』と怖い顔をして選手たちにプレッシャーが伝染するのはよくないと考え、笑顔忘れず、攻める姿勢を貫くことができました」と振り返ります。個人戦でも、ダブルスで大会初のベスト8に四組、ベスト4に三組、決勝も同士の活躍。シングルスでの優勝はできませんでしたが、ベスト8に3人と、名電の力を存分に見せつけました。

競技かるた部

競技かるた部は、平成27年度から、女子部員2名の同好会から始まり、本年度より部に昇格させていただきました。現在1年生から3年生男女16名います。本年度は、高校総合文化祭信州大会に2名が選ばれ出場しました。また、国民文化祭おいた2018に、愛知県代表8名のうち1名が本校の3年生から選出されました。唯一の高校生でした。競技かるたは、「畳の上の格闘技」と言われ、「集中力」「記憶力」「瞬発力」が大切な要素です。公認大会で勝ち進み入賞することで段位が上がります。本校でも有段者が4名になりました。毎



2018年秋の新人戦の様子

年夏に、かるたの甲子園と言われる全国高校かるた選手権が、かるたの聖地である滋賀県の近江神宮で開催されます。団体戦で勝ち抜いた各都道府県の代表校が出

スキー部

第10回名電カップスキー大会 (H29年3月ほうのき平)

スキー競技には、大きく分け4競技があり、愛知県の高校スキー部では、ジャンプ、コンバインド以外のアルペン、クロスカントリーの2競技を実施。しかし、その両種目を持つ学校は、愛知県下で現在、本校を含めて2校しかない。そんな本校スキー部は、1978年に地元愛知の選手ながら将来を期待されたジュニア選手が入学した事をきっかけに創部。スキーブームに乗じ、多い時は高校生だけで40人以上いた部員も、現在、地球温



毎年3月に普及策として“名電カップスキー大会”を実施している。

暖化、スキーおよびスキー競技を取り巻く環境が急速に悪化し、競技人口は激減。今では本校の部員数は中学生含めて15名と少ない。しかし、毎年インターハイ、国体に出場、今夏のローラースキー大会では全国大会で入賞を果たした。競技成績よりも自然、仲間との協調性を大切に、日々心身を鍛錬しています。

第100回全国高等学校野球選手権記念大会 「超攻撃野球」で夏の甲子園30年ぶりの勝利！

野球部

8月11日の初戦は2回戦からの登場で、三重県の白山高校との東海対決となりました。第3試合の興奮が止まぬ甲子園球場。サイレンの合図で、試合前の7分間ノックが始まる。試合の序盤は、このノックの出来栄で決まるとも言える。名電12回目の夏の甲子園だが、5年ぶり。選手にとって初出場と同じだ。緊張に包まれてボール回しが始まり、内野ゴロ、ダブルプレー、本塁送球。選手の動きはすこぶる軽快だ。西愛知大会よりも自信に満ちている。今までで1番のシートノックだ。これは行けるぞ何かの力が後押ししてくれているようだ。プレーボール：・カキーン！打球は左中間にグングン伸びて長打コース。やられたか？左翼手稲生がジャンプ一番、超ファイブプレー！初回のピンチを好守で切り抜けた。やはり選手の動きは万全だ。1回裏の攻撃。切り込み

隊長柳本が狙いすましたセンター返し。二内安打で出塁。三進後、2番西脇があつさり。中前タイムリーで先制。初回からアルプス席のサクラサクラが満開とばかりの後押しだ。流れは名電。牛島、永井も安打でつなぎ3得点の先制攻撃。その後、相手の好守に阻まれ追加点に及ばず。



歓喜に沸くアルプス席

白山高投手陣は戦前予想を上回る球威で四球がない。大量点を許してくれないぞ。しかし5回、3連打を含む5安打で4点を追加。8回には試合を決める本塁打が2発飛び出した。名電打線は積極的に相手投手の得意球を狙い打ち、超攻撃野球を貫いた。先発投手の左腕室田は重責に耐え、立ち上がりから得点を許さず好投。救援秋山が5回から白山打線を封じ込め、三塁すら踏ませない完



甲子園初戦を突破し、アルプス席へ駆け出す選手たち

封リレー。4万人の大観衆が見守る中、カクテル光線に照らされ、名電健児は最高のパフォーマンスを發揮した。10対0、圧勝だ。夏の甲子園30年ぶりの勝利の校歌は格別だ。あのイチロー選手ですら甲子園では苦しみ、勝利できなかつたんだぞ。どれだけ困難なことなのか！名電ナインは輝く球史を刻んだ。
(愛知工業大学名電高校野球部監督 倉野光生)

バレーボール部

高校バレーボール部が、新春に東京・武蔵野の森スポーツプラザで開かれた第71回全日本高校バレーボール選手権大会(春高バレー)に、2年連続16回目となる出場を果たしました。大会には二回戦から登場し、佐賀県代表・佐賀学園高校との初戦は2-0(25-19、25-12)で勝利しました。続く三回戦で、滋賀県代表の近江高校に1-2(29-31、25-22、21-25)で惜敗し、昨年と同じベスト16で大会を終えました。北川祐介監督は「佐賀学園高校には全日本ユースのレギュラーセッターを務める選手もおり苦戦が予想されましたが、得意のコンビネーション豊かな攻撃と高さのあるブロックで勝利できました。」と話しました。



開会式で入場行進するバレーボール部の選手たち

吹奏楽部



庄巻の演奏を披露した定期演奏会

高校の吹奏楽部の定期演奏会が1月6日、名古屋国際会議場センチュリーホールで昼夜二部にわたって開かれました。

フェンシング部

フェンシング部の井上誉聡選手(3年)が、2018年インターハイのフェンシング競技・男子個人エペで優勝、男子学校対抗は団体3位入賞を果たしました。



男子エペ準優勝の井上誉聡選手



団体3位入賞の選手たち

水泳競技部



賞状を手にする若林佑希選手

水泳競技部の若林佑希選手(3年)が、2018年インターハイのシンクロライズ3m飛板飛込で優勝しました。

岩間博校長の学校報告



岩間博校長

永井会長様をはじめ同窓会会員の皆様には、日ごろから本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございますことに心から感謝申し上げます。

平成30年度は、高等学校には、669名の新入生を迎え、このうち女子生徒は200名を超えています。中学校については、今年度から校名を「愛知工業大学名電中学校」に改め、122名が入学しました。この中学校の校名変更も踏まえて、中学校と高校が「愛工大名電(Meiden)」の名の下に一体となつて教育活動のさらなる充実に取り組むことを目標として一年をスタートいたしました。

この意味からも、野球部の夏の甲子園100回記念大会出場は大きな喜びでした。五年ぶりの甲子園

「愛工大名電(Meiden)」の名の下に

の応援には、中学・高校の生徒・保護者そして多くの同窓生の皆さんが参加し、一緒に「名電がんばれ」の大声援を送っていただきました。

ただひとつとても残念なことは、このことを誰よりも待ち望んでみえた学園総長の後藤淳先生に、甲子園で躍動する野球部員と、彼らを応援する名電中・高の生徒らの笑顔を御見せすることができなかったことです。

しかしながら、部活動でがんばる生徒を常に温かいまなざしで見守り、応援していただいた総長先生のご期待に應えるかのように、夏のインターハイにおいて、卓球部は学校対抗3連覇を果たし、フェンシング部も学校対抗第3位となるなど、開催県にふさわしい好成績を残しました。この他に、バレーボール部、吹奏楽部、将棋部なども全国大会において好成績を上げるなど、いずれの部活動も今日までの伝統と実績を力として日々真摯な活動を続けています。

学習・進路に関しては、普通科において、昨年末ま

での大学の推薦入試等において、高校3年間の主体的な学習活動を評価されて名古屋大学や慶応大学に合格した生徒もいます。専門学科3年生では、今年も多くの資格取得に挑戦し、ジュニアマイスター特別賞を受賞する生徒や、課題研究等に積極的に取り組み、A I Tサイエンス大賞優秀賞を獲得するグループもありました。

文科省の推進する高大接続改革も踏まえて、これからは生徒一人ひとりが具体的な将来への目標や学習課題を持つて継続的な学習を積み上げていくことが求められています。学校として、今後さらにキャリア教育や探究活動を計画的に推進していく中で、部活動とのバランスも考慮しながら生徒のより主体的な学習を促していきたいと考えています。

今後とも、同窓会の皆様には、母校に対する温かいご支援を心からお願ひ申し上げますとともに、会員の皆様のご健勝、ご活躍を祈念しつつ報告とさせていただきます。

高校PTAから



石原有里 高校PTA会長

「悲しみ、そして喜び」

同窓会会員の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平成30年度のPTA会長を務めさせていただきましたお礼です。石原有里と申します。

今年度は、学校にとりまして大きな節目となる年であつたように思います。昨年6月1日には後藤淳総長先生が永眠されました。息子の入学式にイチロー選手のお話をいただいたことがとても印象に残っています。

7月の学園葬では、学園に学ぶ多くの学生や様々な分野からの参列者の長い列に先生の人望の厚さあらためて感じました。8月には野球部が夏の甲子園100回記念大会に出場を果たし、満員のアルプスタンドにおいて生徒、保護者、同窓生が一体となつて勝利を喜ぶことができました。

した。文化祭における生徒の発表もはつらつとして活気にあふれており、生徒と同じ場所で共に活動できたことをうれしく感じています。

一年間のPTAの様々な活動を通して、学校の内外において一生懸命がんばっている生徒の姿を見ることが、子供たちの着実な成長を実感することができました。これも校訓「誠実・勤勉」のもとで生徒一人ひとりと向き合いながら熱心にご指導いただいている先生方、そして様々な形で常に母校を支え、応援していただいている多くの同窓生の皆様のおかげと、保護者を代表して心より感謝申し上げます。心より感謝申し上げます。同窓会のみならず、ご発展を祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

お詫びと訂正

平成30年の同窓会だより第10号1面におきまして会長の文章に誤りがありました。渡辺宙明氏作曲の校歌は、名古屋電気学園だけとありましたが、他校の作曲もあるとの情報提供をいただきました。ここに訂正してお詫びいたします。